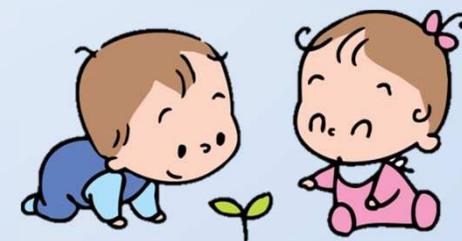


平成25年度

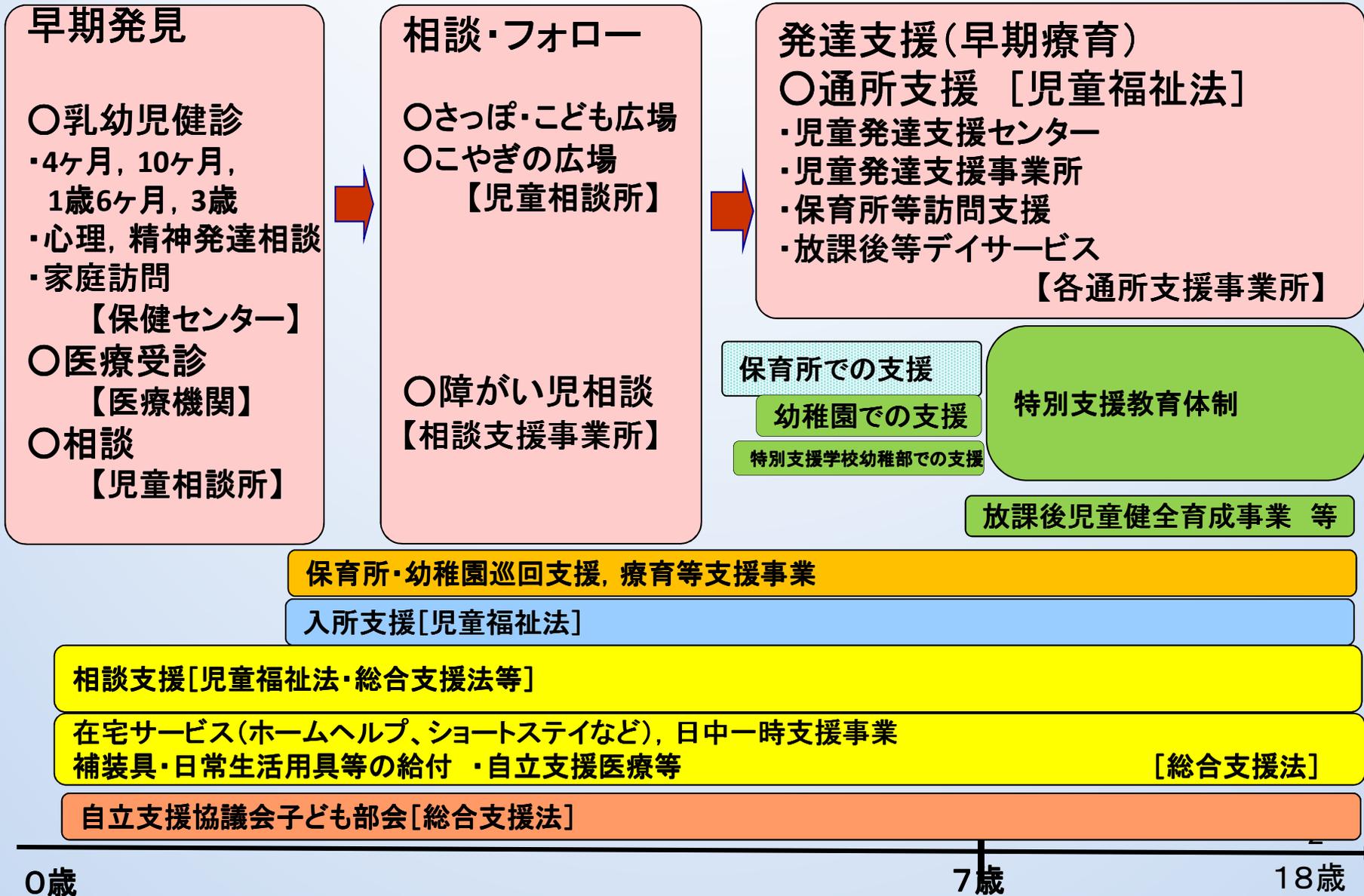
第1回 札幌市児童発達支援研修会

『地域療育の現状及び支援ネットワーク』



札幌市の障がいのある子どもの支援体制（早期発見から発達支援の流れ）

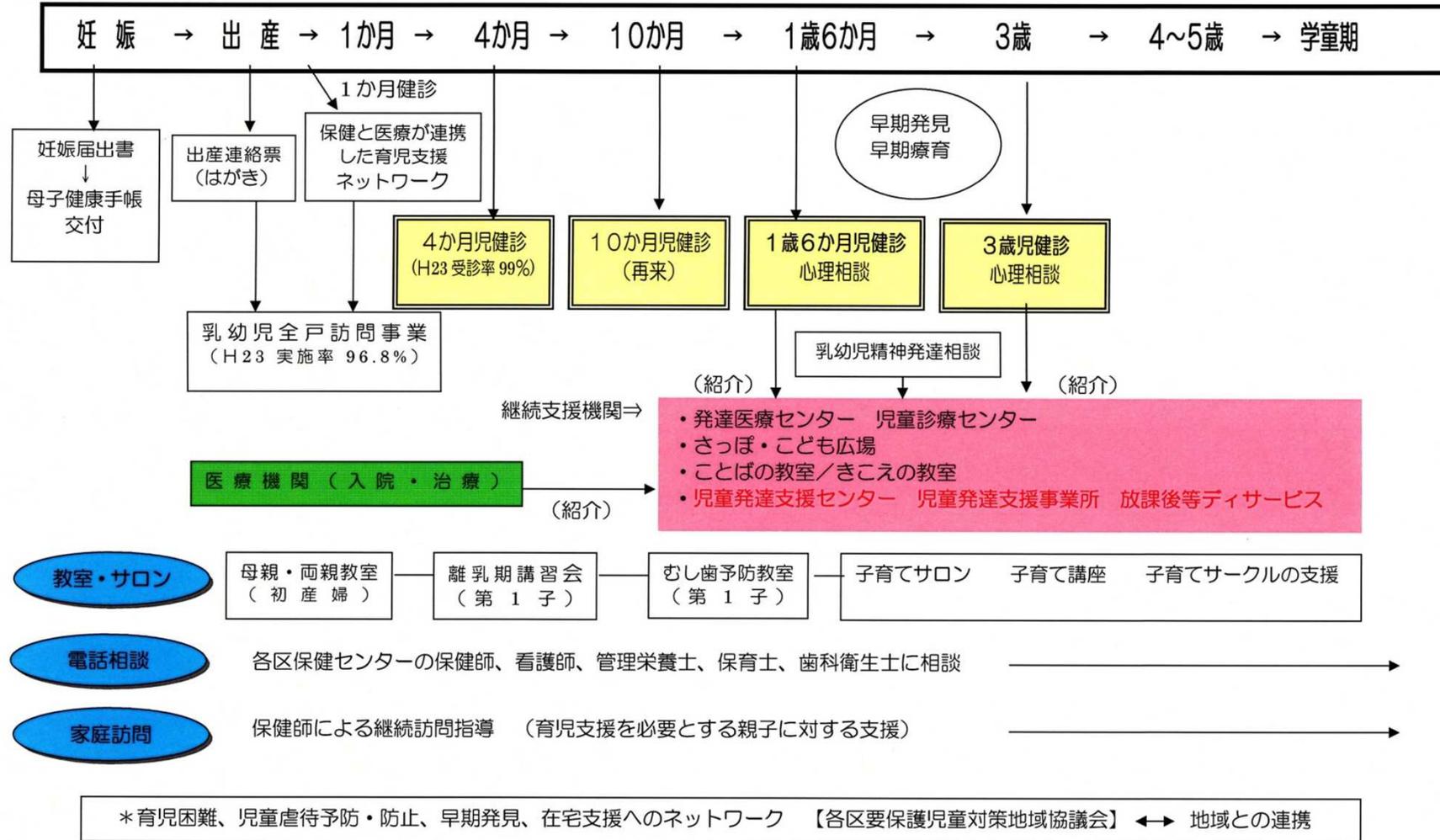
早期発見 → （相談） → 発達支援（発達支援・家族支援・地域支援）



札幌市の母子保健事業

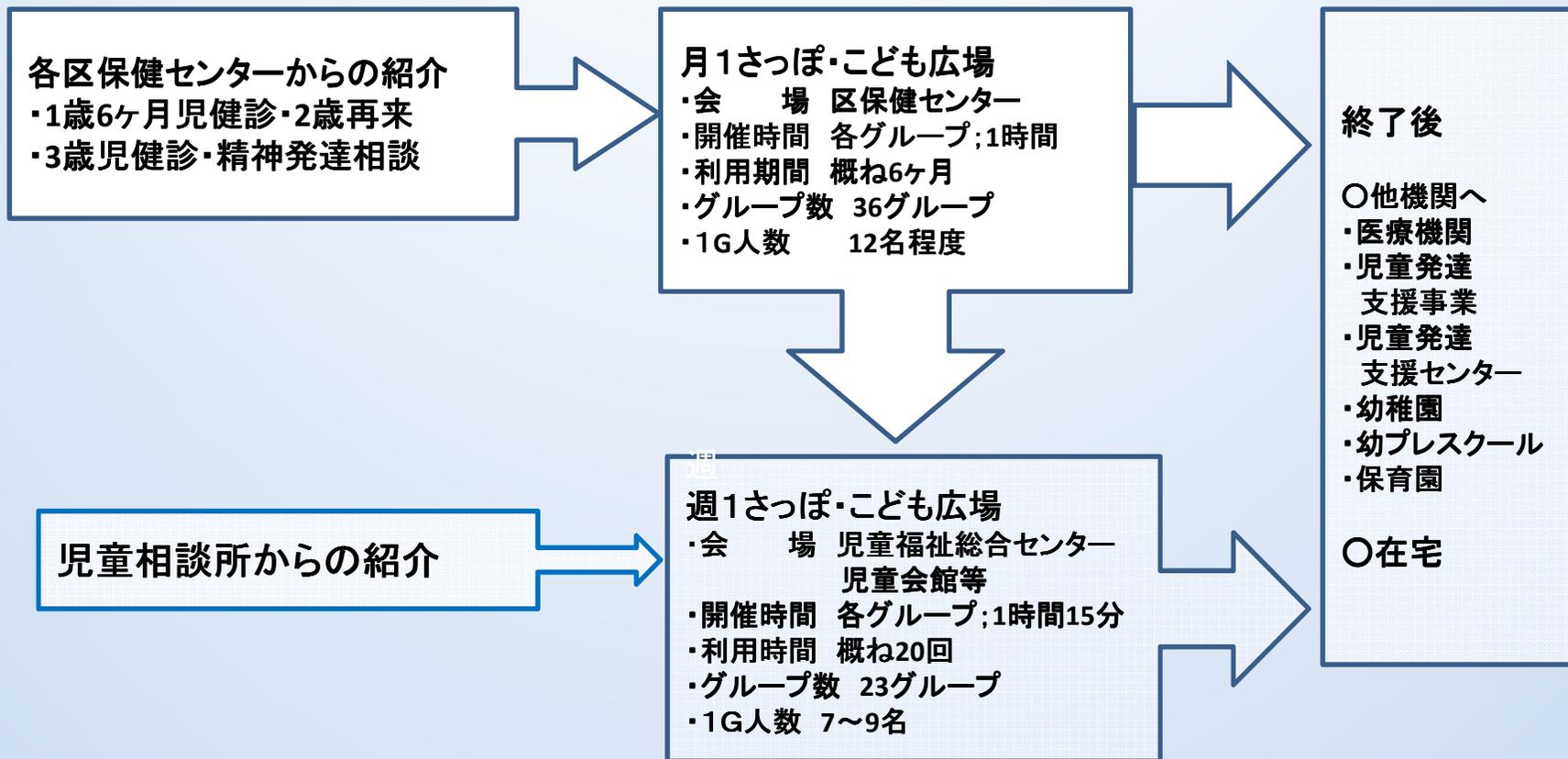
健診・相談

○対象は18歳未満の児童及びその保護者。また。母性保護の視点からの対象者



さっぽ・こども広場について

さっぽ・こども広場の経路図(紹介から終了まで)



目的:発達に心配や発達の気にかかる子どもに対しあそびを通して
関わり親子への支援を行います。

重層的な支援の必要性 ①

児童期の発達支援では、その時期における特徴を配慮した支援が求められます。

その特徴は、

- ①障がいが発覚化する前からの支援である
- ②発達が変化しやすく、弾力性に富んだ(可塑性)時期である
- ③ニーズの内容、範囲が広く、多様である
- ④支援対象が複数になる(子ども, 親, きょうだい等)



関係機関との緊密な連携により、子どもと家族の特性に応じた一貫した関係機関による重層的な支援が大切です。

〈発達支援に関わる機関〉

- ・福祉(通所発達支援, 児童相談所, 保育所, 自閉症・発達障害支援センター, 相談支援事業所等)
- ・教育(幼稚園、学校、教育センター等)
- ・医療(病院、診療所)
- ・保健(保健所、保健センター)

重層的な支援の必要性 ②

〈参考〉

年齢に応じた重層的な支援体制イメージ(案)

年齢に従い利用するサービスが変わっても、関係機関による重層的な支援が継続されることを期待。

支援の目標(例)

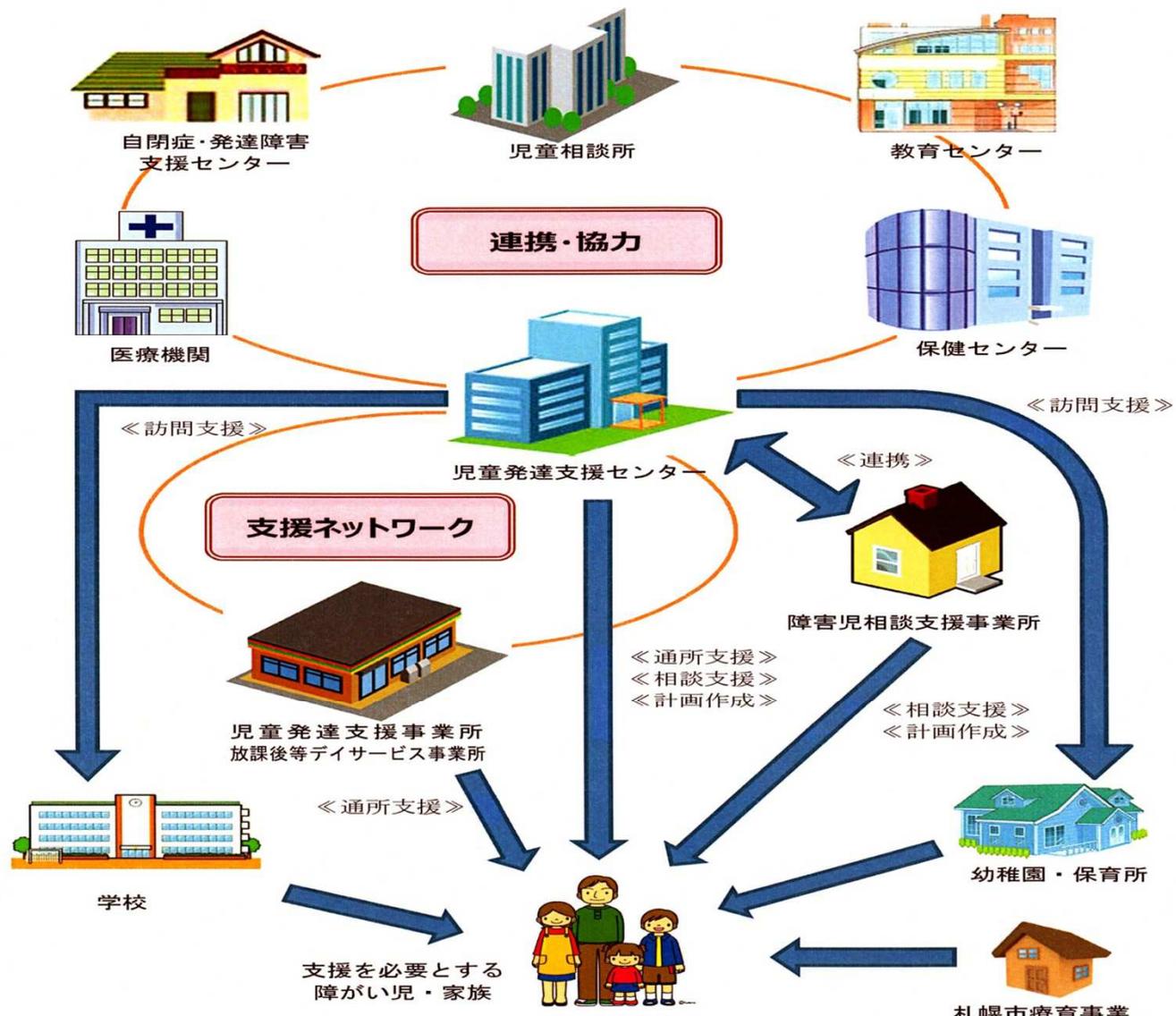
親子関係、日常生活、遊び、
集団等を通じた発達的基础づくり
(心身、対人、言葉、ADL等)

様々な生活体験を通じた生きる力に結びつく基礎
的・基本的な知識・技能の習得
(教科、買物や料理等/ADL、対人、余暇等)

就労、地域生活に
つなげる支援
(実習、自活訓練等)



支援ネットワークの必要性①



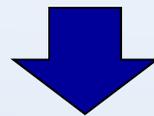
障害児通所支援等の円滑な提供に向けた児童発達支援センターのあり方検討会資料より

札幌市療育事業 (さっぼ・こども広場)

支援ネットワークの必要性②

発達支援では、適切で専門的な療育が身近な地域で実施し継続されることが重要である。札幌市内の障害児通所支援事業所数は多く、児童や保護者の選択の幅が広い一方、地域間及び機関間での支援内容の違いが生じている。また、各事業間で同士の交流の機会も少ない。

そのため、早期発見から療育に関わる各関係機関が、効率的にネットワークを組織し、地域におけるシステムの構築が大切である。



各関係機関が効率的にネットワークを組織し、地域エリア内で、以下の取り組みを行う。

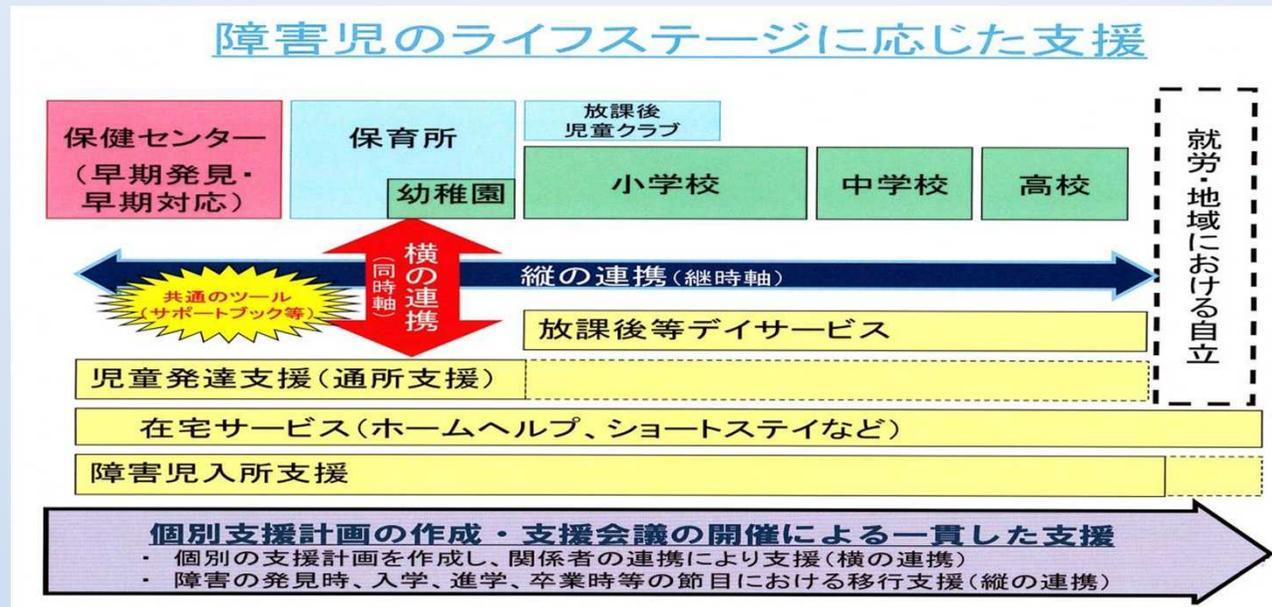
- ①地域エリア内での実態調査による発達支援ニーズの把握
- ②定期的な職員研修会(制度や支援内容の理解)の実施
- ③定期的な事例検討会による支援技術の向上
- ④地域エリア内でのネットワーク会議の開催

ライフステージを見通した支援の意味

- ・発達是一生涯にわたる取り組みであり、その主人公は本人(子ども)です。
- ・大人になり、「地域で自立(自律)した生活を過ごす」ためには、安心感や自己肯定感、社会的行動の獲得が大切です。



- ・発達支援は、大人になるための力を蓄える取り組みであり、ライフステージを見通した発達の基盤作りです。



子どもの発達支援

- 乳幼児期の子どもには、発達上、可塑性の高さがあります。
- 障害や発達上の不均衡があっても、発達段階や特性にあった支援や調整を行えば、本人の社会適応や集団参加が向上します。
- 乳幼児期は、人への基本的信頼感の形成など人間としての基礎を形作る時期です。



家族の養育支援

—子どもが育つためには養育者への支援が重要—

- 良好な親子関係(アタッチメント)が成立するには、子どもと同時に家族の養育に対する援助が必要となります。
- 家族(特に母親)の不安・負担を軽減し、子育てに前向きに取り組めるよう支援します。
- また、次に続く児童期や青年期さらには成人期へとつながるライフステージの始まりであり、家族にとっては子どものために受ける初めての支援の場となります



なぜネットワークが必要か

- ・子どもは社会的存在
- ・幼児期の子育ては、不安な時期
- ・いろいろな機関に頼りたい気持ちが膨らみます。



- ・機関連携をすることで、親の不安はやわらぎ、家族の孤立を防ぎ子どもを守れます。
- ・問題が起こる前に、関係がつながっていると最初の一步に差が出ます。(下山直人:筑波大学付属久里浜特別支援学校校長)
- ・福祉の仕事は子どものための協働の仕事です。

子ども・家族・支援者・行政・保育・教育・医療など
関係機関が仲良くつながって、見守り支えて行きます。

グループワーク

構成

- ・6名1グループ

約束事

- ・対等、尊重、守秘義務、質問自由

内容

- 1.事業所紹介:(1)名前、(2)所属、(3)職種、(4)好きな食べ物、
(5)どんな子が来ているか？

2.講演を聞いて一言

- (1) 私たちの事業所・地域でこんな課題がある

こんなことがあったらいいな

(ex他機関からの支援、運営のノウハウ、保育園・幼稚園・学校と連携、親御さんとの相談)

- (2) こんなことをやってみよう

そのためには、何をしたら良いか？